

一號國道

東海道案內

靜岡縣

# 東海道案内目次

|           |   |
|-----------|---|
| はしがき      | 一 |
| 箱根自動車道    | 三 |
| 箱根無線電信局   | 三 |
| 接待茶屋      | 三 |
| 箱根坂路改築    | 一 |
| 舊道の石疊     | 一 |
| 山中城       | 一 |
| 箱根の産業     | 一 |
| 一里塚       | 一 |
| 三島神社      | 一 |
| 三島町地内国道改築 | 二 |
| 三島町       | 二 |
| 黄瀬川古驛     | 二 |
| 一里塚       | 二 |
| 一本松原町     | 二 |
| 千原町       | 二 |
| 原市        | 二 |
| 津市        | 二 |
| 津市        | 二 |
| 津川橋       | 二 |
| 薩埵峠       | 四 |
| 由比町       | 四 |
| 比町        | 四 |
| 由比町地内国道改築 | 四 |
| 清江見尻      | 五 |
| 清水港       | 五 |
| 興津川       | 五 |
| 興津川橋      | 五 |
| 興津川橋      | 五 |
| 薩埵峠       | 五 |
| 由比町       | 五 |
| 比町        | 五 |
| 由比町地内国道改築 | 五 |
| 山富士       | 三 |
| 吉富士       | 三 |
| 水原町       | 三 |
| 禽の跡       | 三 |
| 富士川橋      | 三 |
| 岩淵浦原間の舊道  | 三 |
| 富士川町間国道改築 | 三 |
| 浦原町       | 三 |
| 淨瑠璃姫の墓    | 三 |
| 浦原町       | 三 |
| 原町        | 三 |
| 山         | 三 |

三保の松原

日本平

清水静岡間國道改築

草薙

静岡市

臨済寺

静岡市内國道改築

安倍川橋

手越河原古戰場

丸子の宿

柴宇都谷

朝顔目あきの松

牧野原の茶園

金谷日坂間國道改築

菊川の里

小夜の中山夜泣石

日坂

川井付

村

天龍川橋

中姫街道入口

三方原古戰場

濱松市

舞坂

三方原古戰場

濱名湖

新居

潮見坂

須賀町

本の古驛

静岡縣茶葉大要

西

附 國道一號之略圖

## 東海道宿驛

(靜岡縣管内)

(神奈川縣)

四里

一里二十七町  
一里二十町

三里一町  
三里一町

三十四町  
一里十五町

二里七町  
二里十七町

二里三十二町  
二里三十二町

二里  
一里十七町

岡丸府江興浦由吉原沼三箱

部子原原津尻中中

根島原津原谷

藤枝 一里二十八町

二里十五町

一里十八町

二里

日掛袋見浜舞 一里三十二町

二里二十三町

一里二十三町

三里五町

一里二十七町

一里二十九町

新居坂松井 三里七町

白須賀 一里二十九町

## 東海道案内

はしがき

縣下國道一號即ち東海道は神奈川縣界箱根峠より、遠州白須賀町愛知縣界に至る區間延長一九三糺六二三米あり。徳川時代には將軍の上洛西國諸侯參勤の道筋となり、加ふるに太平打續きて旅行者の往來頻繁となり、所謂東海道五十三次の宿驛は發達し全國中最も著名且つ権要なる交通路となりたり、而して本縣内には三島を始めとして二十二個所に宿驛ありたり。然るに道中には箱根、藤壠、宇津谷、金谷、日坂、潮見坂等の急坂路及富士川、安倍川、大井川、天龍川、濱名湖等の難所あり。殊に大井川の如き橋梁を設けず渡船を置かず、すべて川越は葦台又は肩車による外なく交通上頗る不便なりしが、之等の難所も時代の推移に伴ひ政府及縣に於ては特に之が改良に力を注ぎ坂路の改築、道路の擴築、橋梁の架設、路面の改良等順次完成し、高速度重量自動車の交通に堪え得る狀態となり、其他各地も漸次改良されつつあり。蓋し道路の改良は産業の發達、文化の進展に寄與する所尠からず、以下順次沿道の名所、舊蹟、產業、改良工事等の概要に付説明すべし。

**箱根峠** 神奈川靜岡兩縣に跨り、昔は峠より小田原、三島へ各三里二十八町兩者を合し箱根八里と稱したるものなり、此の八里こそ名に負ふ天下の嶮にして、獨竪にゆられて山越したる當時を思へば、今自動車にて疾驅する轉た今昔の感に堪へざるものあり。

**自動車道** 駿豆鐵道株式會社の起業經營にかかり營業區間を十國峠、箱根峠とす、其の延長一〇糺二二二米巾員六米最急勾配二十分ノ一最近鋪裝工事を了し、熱海箱根間ドライヴ、ウエーとして春秋は殊に賑へり。

**箱根無線電信局** 遷信省所管航空無線電信局九個所中の一にして、定期航空に對する氣象通報を取扱ふ、此の局は昭和三年十一月起工翌四年五月二十日竣工せるものなり。

**接待茶屋** 有名なる箱根接待茶屋は其の昔江戸吳服町の商人加勢屋與兵衛なるもの、箱根の險路を通行する牛馬に豆三合づつを施與したりしより此の邊一帯を施行平と稱す、其後明治十二年下總國の有志相謀り資を投じ小屋を建て往來の客に茶を進め焚火をとらせ價を受けず奉せるものにして、現在は錦田村鈴木某により此の尊き社會奉仕は續けらる。

**箱根坂路改築** 大正十年七月靜岡縣は工費三十八萬二千九百餘圓を投じ、縣界より三島町に至る通間の改築工事を施行した  
り延長一六糺二九、幅員四米五乃至七米二最急勾配十五分ノ一にして大正十二年九月竣工す。

**舊道の石疊** 文久元年孝明天皇、皇妹和宮親子内親王、徳川十四代將軍家茂公に御降嫁の年、幕府伊豆韋山代官江川太郎左衛門に命じ敷設せるものにして、當時の敷石は今尙舊道に現存し昔の東海道箱根八里を偲ばすものあり。

**山中城址** (田方郡) 城は北條氏西方防禦の爲め築きたるものにして本丸二ノ丸より成る、天正十八年豊臣秀吉、小田原征伐の時豊臣秀次五萬の兵を率ゐて攻む。北條方利あらず城兵五百餘人皆戰死し城遂に陥る。城址今尙存す。

**箱根の產業** 箱根一帶は土地肥沃にして蔬菜の栽培に適し、牛蒡、人參、大根、甘藷の類は殊に品質優良にして其の產額多く、京濱、京阪地方に移送す、山中一帶に繁茂せる小竹は各種竹細工となる。

**一里塚** (田方郡) 並木敷の中に小ん盛したる塚一對あり之れ昔の一里塚にして、慶長九年徳川家康路法を定め一里毎に塚を築

かしめたる當時の跡なり、今は塚の上に在りし楓樹は枯死し塚のみ存せり。

**三島神社** 明治四年官幣大社に列せらる、祭神は大國主の御子積羽八重事代主命なり。往昔より朝廷の尊信高く殊に源頼朝以來武將の尊崇厚きを加ふ、例祭は八月十五、十六、十七日の三ヶ日間にして最も崇嚴に行はる。

**三島町地内国道改築** 延長七六九米一、幅員一四米五膠石鋪装なり。工費十三萬九千餘圓、昭和七年十二月竣工す。

**三島町** 伊豆國田方郡に在り、沼津へ一里半昔時伊豆國府の地、箱根西口の一宿驛として徳川時代には參勤の諸侯始め旅人の宿場として繁華を極めたり。滾々と流れる清水と三島女郎衆は町の名物にして、富士の白雪と三島女郎衆の歌は當時の三島を物語れり。

**黄瀬川古驛址**（駿東郡大岡村）黄瀬川聚落の北東より中石田附近にして、本宿は川の東岸に在り、驛は平安朝末期永藏驛の南に移りしものならん、當時の官道足柄街道と箱根路との分岐點にして、古は頗る殷賑を極め旅舍料亭を並べたり、遊女籠鶴の事は曾我物語に見へたり又。

今日くる身を浮島の原にても

つひの道をはきき定めぬ

と詠みたる中納言宗行卿の事は東鑑に見え、名高き古驛なり。

**一里塚**（沼津市）日枝神社鳥居前左側に在り。老樺樹の大木は昔の一里塚にして對側の塚は取除かれ存せず、此の社には建久の頃源頼朝富士の卷狩の時使用したりと云ふ大釜を存す。

**沼津市** 三島と原との中間狩野川々口に位し五十三次の東海道中屈指の宿驛たり、今は人口五萬を擁し商工業盛んにして交通の要路に當る、駿河灣に臨み沼津港を控へ物資の集散地なり、市の南南東桃郷に沼津御用邸あり、千本松原は風光明媚を以て著る。

**千本松原** 沼津市狩野川々口より富士郡田子浦村富士川尻に及ぶ。砂濱一帶翠松を生じ、喬松枝を交へ翠色を滴す、靈峰富

士翠松の間に雄姿をあらはし、海上遠く三保の松原、伊豆の連山を望み風光の美眞に描きたるが如し、松樹は往昔沼津乗連寺の開祖増興潮風の害を防がんが爲め植栽せしものにして、一株毎に經を誦したりと傳ふ、中に六代の松と稱する

一樹あり、平維盛の遺子六代が將に刃を加へられんとせし遺跡なりと。今片濱村東開門に在り。

原町

沼津より一里半五十三次の駿河縣の宿駅にして昔は浮島の宿とも稱したり、海近き砂丘より愛應山麓との間一帶の地を浮島ヶ

原と稱せしもの、中に浮島沼あり沼は東一里、南北二十四町、往昔須戸の湖とも稱したり。

**富士山** 富士山は海拔三糸七八八米、一望十三州に達する我國最高の靈峰なり、山は人皇七代孝靈天皇五年巽鬱湖と共に一夜にして出現したりと云ふ神話あり、續日本記によれば天武天皇白鳳八年以後寶永四年に至間千二百二十九回噴火したりと記さる、其の内延暦十九年、貞觀六年、寶永四年の噴火は實に三大活動と云ふべき大噴火なり、頂上より少し下りたる右に突出せるは寶永山にして寶永四年噴火の際出現したる山なり。

富士は毎年七月十一日閉山し八月三十一日閉山す、本縣内には大宮、御殿場、須走の三個所の登山口あり。

**左富士**（富士郡）鈴川、吉原間の松並木一町半程の間を左富士と稱す、沼津より西に向ひて進めば右に富士を仰ぐを常とする

も、此所ばかりは左の方に富士を仰ぐべくその奇觀は旅の風情を満喫せしむ。故に昔より左富士と稱し有名なり、廣重畫く東海道五十三次の左富士は即ち此所より眺めたるものなり。

**吉原町** 富士郡の一都邑にして昔は五十三次の駿河縣の宿駅なりき。今は工場地帯となり製紙、人絹等の製造工場あり、其製品の品質優良なること全國一と稱せらる。

**富士町** 富士身延鐵道の起點にして、製紙業の盛なること吉原に次ぐ、此の附近一帯は有名なる富士梨の產地なり、又町の東南一帯は治承の昔源平の戰に源氏の軍勢二十五萬の大軍が陣營せし所なり。

**水禽の跡** 其の昔治承四年源平の戰に平家の先陣大將平維盛五萬餘騎を率ゐて今の富士町のほとりに陣せしが、夜半水禽の飛び立つ羽音に驚き、すは源氏の大軍押寄せたりと思ひ、あはてふためき武具をも着けず、逃げ歸りたりと平家物語に

ある水禽の跡は此の邊一帯の地なり。

**富士川橋** 富士川は日本三急流の一なり、流水渦を巻き奔流岩を噛みて急流の一たるに背かず、昔幕府戰略上橋梁を架せず明治の御代となるも架橋困難なるため、架橋せず渡船の便により來りしが、大正十一年靜岡縣は工費七十八萬五千餘圓を授じ架橋に着手したり、鋼構橋延長三九八米、幅員七米、取合道路延長三九三米六、幅員七米二七乃至一〇米七にして、大正十三年八月竣工す、縣下五大橋の一なり。

**岩淵蒲原間の舊道** 富士川橋西詰より高臺に登り本町通りに出で、七難坂を越えければ蒲原に出づ、これ昔の東海道なり途中なる富士川町役場前に塚あり、兩側に殘れる最も完全なる一里塚なり、塚の上には老梗樹の大木繁茂せり史跡名勝天然記念物に指定さる。

**蒲原町間國道改築** 富士川町岩淵より蒲原町に至る延長八糠四二〇、幅員七米五乃至九米なり。工費六十萬圓、内務省直轄工事として施工、昭和十一年八月竣工す。

**海瑞璫姫の墓** (蒲原郡) 畠中古松五、六本ある所これなり、其の昔海瑞璫姫三州矢矧の宿より判官義經を懇慕し後を追ひて陸奥に下る途中、此の地にて疲れ死す。里人憐みてこれを葬り其の周圍に松六本を植え靈を慰めたりと傳ふ。

**蒲原町** 海に面し後に山を負ひ帶の如く細長きさやかなる町なり、吉原より三里東海道五十三次の一驛なりしも、今は榮えし昔の面影も見えず、半商半農漁地なり、櫻蝦、蜜柑、枇杷を産す、蒲原より江尻に至る海岸一帯は富士に遠ざかり波静かに岸美しく風光明媚なり。

**由比町** 蒲原より三十四町昔は五十三次の一驛として榮えしも、今は昔の影を止めず寂れたり、怪傑由比正雪の出生地なり舊道は町の西端より薩埵峠を越えたるも、今は海岸に沿ひて興津に通す、櫻蝦、蜜柑の名產地なり。

**由比町地内國道改築** 内務省は工費三十四萬圓を以て延長二糠二三五米、幅員七米五、路面混凝土鋪装、防波護岸二糠一〇三米を直轄施工す、内跨線橋及其取合道路延長四〇米は靜岡縣に於て施工したり。

**薩埵峠** 古名を岩城山と云ひ舊東海道の難所にして、一番坂、二番坂、險ヶ峰等を登りて山頂に達し、葛籠坂、女夫坂、切通坂等を経て西瀧興津に出づ、古へは西登口に關所ありしが中世に至り興津清見寺前に移され後廢せらる。

**興津川橋** 延長二一米(取合道路を含む)、幅員七米二、鐵筋コンクリート橋なり、昭和六年三月起工同七年九月竣工す、工費十六萬六千五百圓なり。

**興津町** 由比より二里七町、五十三次の一驛にして、清見潟に面し對岸に三保の松原を望み風光明媚を以て知らる、町の北西方高丘の上に清見寺あり、其他海水浴場、農林省園藝試驗場あり、又西園寺公別邸坐漁莊は知名の士政客の往來を以て知らる、名產興津駒の珍味は又賞すべし。

**江尻町(清水市)** 舊東海道五十三次の一驛にして町を流る巴川は舟運の便あり、清水港に連絡す、水陸交通の要地に位し清見寺(興津町)町の北西方高丘上に在り、天武天皇こゝに關を置かれし時其の鎮護として建立させ給ふと傳へらるる古刹なり、臨濟宗妙心寺派に屬す、雲濟長老の築造せし名園は觀月の名所として名高し。

物貨の集散盛んなり、以前は江尻町として獨立せる町なるも大正十三年、清水町不二見村其他を合併し清水市となる近くに龍華寺・鐵舟寺・梅蔭寺等あり、龍華寺には文豪高山樗牛の墓あり又有名なる仙人掌大蘚鐵あり、内務大臣指定天然紀念物なり、鐵舟寺は臨濟宗の名刹にして明治十六年山岡鐵舟居士の再興したるものにして、梅蔭寺には大俠次郎長の墓あり。

**清水港** は東海の中樞太平洋航路の要衝に位し、絶勝三保の岬自然の防波堤をなし、港内波靜かに、水深く港背地域頗る廣汎にして、國有鐵道東海道線及國道府縣道を控へたる眞に天與の良港なり、往古德川時代大阪の役に兵器糧食を此處より積出し、爲めに後四十二戸に問屋業を營ましむ、當時より既に廻船の出入するもの多く海運の便開けたり、本港は明治三十二年開港場に指定されてより、外國航路汽船の寄港するもの漸く多きを加ふるに至る、後明治四十二年五月港灣設備工事に着手し大正三年竣工を告げたるも、規模極めて小さく海陸連絡の設備充分ならざりき依つて大正十年より昭和

四年迄繼續事業として修築工事を施行し今日に至る此の工費八百六十三萬七千餘圓を要したり、現在は三千噸級二隻、八千噸級一隻、二萬噸級二隻を同時に接岸へ得、更に陸上設備及貯木場を施設し港灣設備を完成す、本港出荷の重なるものは、茶、蜜柑、罐詰等入荷の重なるものは石炭、木材等にして、其外國貿易に於ける輸出茶、蜜柑、罐詰、肥料等は二九、八一六、一七噸、一四、〇六五、四五五圓。輸入大豆、木材、石炭、肥料等は二九九、〇〇四噸、一六、八五四、四〇七圓。内國貿易に於ける移出茶、蜜柑、豆粕等は一六、九六三噸、九〇七、三三六四。移入大豆、木材、石炭、肥料等は七一三、九〇二噸、三四、六二四、一〇〇圓を算す。

**三保の松原** 清水港の南東駿河湾に突出せる長砂一帯の地を云ふ、三保の松原は羽衣の傳説によりて人口に喰炎せられ、天女の羽衣を懸けてふ羽衣の松はその中にあり、晴れたる海に大富士と白砂の長汀けだし東海隨一の絶景なり、また近くなる有度山の東麓龍華寺より望みたる灣内及三保、富士の勝景また賞すべし、松原の尖端にある燈臺は高さ六十八尺連閃白色十四浬を照し海上の安全を期す。

**日本平** 安倍郡有度村地籍にあり、有波山の山頂三百メートル其所に廣き平地あり。名付けて日本平といふ。

茫茫たる駿河の海、うすれ行く幾山並、富士、清水港の裏、三保の松原、白光りする外洋等この展望は絶景中の絶景なり。而してこれが觀光施設につきては久しく顧みられざりしが近年漸く施設に着手し頂上まで自動車を通ずるに至れりまた索道の建設ホテルの經營準備もありと聞く。

**清水静岡間國道改築** 昭和三年一月起工、昭和七年三月竣工せり、延長一一糠九〇、幅員二一米八、工費二百十一萬千餘圓なり。更に昭和八年一月より工費二十六萬八千餘圓を以て路面の鋪装工事を施工したり。

**草薙** 安倍郡有度村の一部落にして、日本武尊東夷征討の時義雲劍を以て草を薙ぎ野火の危難を脱し給ひし古跡なりと傳ふ  
**縣社草薙神社**は尊の神靈を祭祀す。

**静岡市** 古への國府のありし地、延喜式横田驛にして、後嵯峨又は府中と稱し五十三次要衝の宿驛なりき、慶長十二年徳川

家康此の地に居城したりしを以て、一時天下の實權はここに移れり、駿府の榮えしはこの頃よりにて諸國の商人次第に城下に集り急速の發展をなすに至れり、明治二年府中を静岡と改む、爾來静岡市は東海道屈指の都會となり人口二十萬に上る、舊城址の本丸及二の丸は歩兵第三十四聯隊の兵營、三の丸には縣廳、裁判所其他學校等の建物あり、淺間神社寶臺院、臨濟寺等の神社名刹あり、静岡市は氣候溫暖にして水清く、天產、豊富にして商工業盛んなり、主なる產物は茶、果物、蔬菜、漆器、竹細工、齒朶細工、其他山菜漬、蒲鉾等なり。

**淺間神社** 賤機山南麓に在り木花開耶姫命、大己貴命、大市比賣命を祭神とする、國幣小社なり。社殿は所謂淺間造にして結構壯麗を極む。山田長政の獻納せる遜羅國軍船の圖其他の寶物あり。四月初旬の廿日會祭は静岡市年中行事の一として頗る殷賑を極む。

**臨濟寺** 淺間神社の北方大岩に在り、臨濟宗總本山にして戰國時代の雄今川家の菩提寺なり、本光國師を以て開祖とす、後奈良天皇の勅願所にして爾來國守勅を奉じ加藍の修繕再建を行ふたりと云ふ、寺觀宏壯にて庭園幽閑なり。後奈良、正親町兩帝の勅書を始め徳川家康に關する多數の寶物を藏す。

**靜岡市内國道改築** 市内の國道は驛より東清水市に至る間は静岡縣に於て施行（清水静岡間國道改築參照）したるも、驛より西、安倍川に至る間延長二、六〇〇米、幅員二二米は都市計畫事業として、工費百九十六萬九千餘圓を以て静岡市に於て施行したり。

**安倍川橋** 廣重の繪に知られたる安倍川渡しは昔は肩車にて川を越したるも、明治七年宮崎總吾氏貨取橋を架設したるも、明治三十六年靜岡縣に移されたり、現在の橋梁は大正十一年三月起工し同十二年九月竣工す、橋梁延長四九〇糠九一、幅員七米二七、取合道路延長四五五糠、幅員九米一乃至一三糠六四にして、靜岡縣の施工に係り工費五十八萬九千餘圓を要したり。

**手越河原古戰場**（静岡市手越） 安倍川西岸一帶の地を手越河原と稱したり、建武二年十二月新田義貞、賜屋義助等、足利尊

氏の先鋒足利直義の大軍を破りたる古戦場として有名なり、又手越の長者の娘千壽姫の事どもは平家物語に見えたり。丸子の宿(静岡市丸子)昔は鞠子の宿と稱し五十三次の宿なり、名物トロロ汁は往來の客を喜ばしめたり。路傍に名高き芭蕉の句碑あり。

### 梅若菜丸子の宿のとろろ汁

柴屋寺(静岡市丸子)丸子の宿を少し入りたる處に、天柱山柴屋禪寺と稱する淨刹あり、此處は彼の有名なる連歌師宗長閑居の跡にして、寺境幽靜東に吐月峰を望み、西に天柱山を仰ぎ明月高く上れば影は庭上の盆地に浮びて寂ひ深し。庭園は今國寶に指定さる。

**宇都谷峠(岡部町界)** 昔業平朝臣が東へ下りし砌り

駿河なるうつの山邊の現にも

夢にも人に逢はぬなりけり

と詠まれたる萬の細道は今の國道の南方にあり、國道は舊東海道を二回改築したるものなり、現在の國道は大正十五年一月起工し、道路延長二八〇米、幅員七米三、隧道二三七米三、幅員七米三を工費二十九萬九千餘圓を以て靜岡縣に於て施工し、昭和四年四月竣工を告ぐ。

**岡部町** 宇津谷峠を下りたる處五十三次の駿河部の宿なり、當時は峠の上り口なると大井川々止とにより相當客足を留め賑ひたるも、今は鐵道を遠く離れ昔の面影なし、附近は茶、蜜柑の產地なり。

**藤枝町** 舊東海道五十三次の宿、本多候四萬石の城下なり。このあたりの街道は雲助も駄賃をゆすらず、盜賊も無く旅人五に道を譲合ひ、盲人さへ安心して道中出來たりと云ふ、今は鐵道を遠く距りたれば昔の繁華は跡もなし、此の附近は茶、椎茸の名產地なり。

**島田町** 越すに越されぬ大井川の難所を控へ對岸金谷と共に、五十三次の宿驛にして、大井川の川止めとなれば旅人は逗留

を餘儀なくされ、朝顔日記の深雪の如き悲劇もありしかど、今は昔の賑かなりし面影なし、されど現在は西駿屈指の都會にて、大井川流域の木材の集散地として製材業の盛んなること、將に東海一と稱せらる。

**朝顔目あきの松** 大井川橋の東詰堤上に在る稀有の老松即ち朝顔目あきの松なり、盲女深雪島田の宿に滞りし頃偶々愛人熊澤蕃山に逢ひながら盲目の悲しさこれを知らず後之を知り大井川堤に後追かけしも、大雨川止めの爲め阻められ蓬潮もむなしく悲泣限りなかりき、其時義僕徳右衛門の忠誠によりて兩眼明きたると、深雪の目に映じたるもの即ちこの大松なりしと云ひ傳ふ。

**大井川橋** 箱根八里は馬でも越すが越すに越されぬ大井川と、唄はれたる東海道隨一の難所、昔は葦臺又は肩車にて川を越したり、明治初年始めて橋梁を架したるも洪水の爲押し流され、其後は渡船の便により來りしが、大正十三年縣は工費百七十一萬五千圓を以て、延長一、〇一九米一、幅員七米二七のプラット式鋼橋橋及取合道路延長一、七四六米三、幅員一〇米を施工し、昭和三年七月竣工を告ぐ。

**金谷町** 大井川を隔て島田と相對し五十三次の宿驛にして、昔は非常に賑ひたる處なり、今は省線金谷驛あり又大井川鐵道の起點にして、茶、椎茸の集散地なり。

現在の國道は町の北裏を通過す。

**牧野原の茶園** 金谷町の南方榛原、小笠兩郡に跨る牧野原總面積一萬五千町歩は總て茶園なり、牧野原茶園を見ずして茶園を談する資格なく實に全國一と稱せらる、國立茶業試驗所を始め縣立茶業試驗場あり、昭和三年今上陛下の行幸あらせられし光榮を有す、此の茶園明治二年の頃靜岡藩士中條金之助等配下二百人を率ゐ、此の不毛の地を開墾せしを嚆矢とし明治三年大井川渡船となりたる結果、川越人夫百餘戸生計の途を失ふに至れるを、官は之を憐み原野二百町歩金子千圓を交付し農事に就かしむ、之等の人々も山野を開墾し茶樹を植え之を成育したり、之れ今日の牧野原大茶園を成さしめたる以所なり。

**金谷日坂間國道改築** 大正十五年一月國及縣は工費七十五萬餘圓を負擔し、延長八糸二二二米、幅員五米六乃至六米を昭和七年四月竣工したり。

**菊川の里** (榛原郡金谷町) 小夜の中山に差しかかる菊川の溪流に沿うて、往昔菊川の宿ありき、彼の前中納言藤原宗行承久三年北條氏の爲め捕へられ鎌倉に送らるる途中此の地に宿りたる時「昔南陽縣菊水、汲下流而延齡、今東海道菊河、宿西岸而失命」と一詩を宿の柱に書き、又元弘の難に藤原後基も宗行と同じ運命に遭ひ、下向の途中此の宿にていにしへもかかるためしを菊川の

おなし流に身をやしつめむ

と詠みし歌は共に忠臣の哀を留めしめ、うたた哀愁を催さしむ。

**小夜の中山夜泣石** (小笠郡日坂村) 小夜の中山は舊街道金谷、日坂兩宿間の山嶺にあり、ここに夜泣石ありて哀話を秘めたり、傳説に昔日坂に身持ちの女ありて金谷なる情夫の下に行く途中、中山に差しかかりし時山賊に出會ひ、意に従はざりければ遂に斬り殺されたり、その時姫婦の腹より嬰兒出でけるに、彼女の日頃念する觀世音僧の姿となりて現れ、嬰兒を賤が女に預け飴にて養育せしむ、其子成入し後諸國を巡り終に池田の宿にて、彼の賊に逢ひ親の仇を討つことを得たりと、夜泣石は亡婦の怨靈なるか夜々嬰兒の泣聲を發したりと云ふ、これより夜泣石とは名付けられさり、今新道の茶店の前に在る石は即ち當時の夜泣石なり、今茶店に名物兒育ての飴を賣る。

**日坂村** 小夜の中山の西麓にあり五十三次の宿として、昔は相當賑ひたりしが今はさびれ果つ、わらび餅は昔ながらの名物なり。

**掛川町** 小笠郡下の一都邑、袋井へ二里十六町五十三次の宿驛にして、太田侯五萬三千石の城下なり、中遠物資の集散地にして葛布を産す、町の北丘は掛川城址にして町役場は當時の建物なり、丸の内には大日本報徳社あり、西端十九首町は天慶年中藤原秀郷關東に於て、平將門始め宗徒十八將を誅し、勅使此の處に來り臨檢したる時、此處の河水にて首を洗

ひたるより十九首町の名あり、寺を平將寺と云ひ十九首の塚あり。

**袋井町** 東海道五十三次の小驛にして、周圍山に圍まれ惣も袋の如き觀あるを以てこの名を得、掛川を去る二里三十三町、町の北方約三十町久努西村に有名なる臨濟宗總本山可睡濟あり、又町の東南約一里にして法多山尊永寺の古刹ありて、

兩者共四時賽客にて賑へり、花庭を産しその他北遠の茶、椎茸、材木等の集散地なり。

**見付町** 豊田郡の一都邑なり舊東海道五十三次の宿驛にして、昔は榮えたれども今は鐵道に遠かりし爲め發展せず、町内天神平に矢奈比賣神社あり、毎年陰曆八月に行ふ裸祭は有名なり、鎌倉時代には見付より直接池田の宿に出でたるも、其後中泉に出で西折して池田に向ひしが、現在は池田を通せず天龍川を渡れり、池田宿には仁安の頃池田の長者子なきを歎き、一日熊野權現へ詣で祈りしに一女を儲けたり名を熊野と名付く、海道一の美人なりければ平宗盛當國守なりし頃召されて寵を受く、後ち都に歸る時熊野も從ひ參りしが、老母故郷に病めりと聞き暇を請ひたるも、宗盛許さず依つて熊野はいかにせん都の春もをしけれど

なれしあづまの花やぢるらん

の一首の歌を詠みけるに宗盛孝心に感じ、遂に歸國を許したるは平家物語、謡曲熊野により著名なり。

**中泉町** 古への國府の在りし所官府は天文十年以後廢せらる、本町は省線中泉驛の所在地にして見付町の不振なるに反し益々發展の域にあり。見付町に接したる所に府八幡宮あり。府八幡宮は上世國府廳の所在地なりと稱せらる、社は府尹櫻井遠江守の創立せるものなりと傳ふ傍の小庵は國府寺の舊址にして、其の四境より當時の陶器古瓦を發掘したり。

**天龍橋** 天龍川は川幅廣く架橋困難なりしを以て昔は渡船を以て川を越したりしが、明治初年鈴木某なるもの長六百四十六間、幅二間の木橋を架け貰取橋を經營し來りたり。昭和四年縣は工費百二十六萬三千餘圓を以て現在の鐵橋を架橋す橋梁は延長九一九米四七、幅員七米二七及取合道路延長二糸八二五、幅員一〇米昭和八年六月竣工す。

**中ノ町** 天龍川西岸にある小市街地にして、江戸と京都の略中間にあり。中ノ町とは名付けられたり。天龍木材の集散地にして製材業盛んなり。

**姫街道入口** 本街道は東海道の一支線にして、濱名郡和田村壹場にて東海道を分歧し、市野、氣賀、三ヶ日、各宿を経て本坂峠を越へ三河國豊川に出で御油の宿にて東海道に合す、昔時新井關所にては女人の改め嚴重を極めたる爲め、女人は其の煩を避け此の裏街道を通過したるものなり。

**濱松市** 天龍川と濱名湖の中間に位し東海道、信濃街道相交錯する交通上要衝の地にして、五十三次の宿驛たり、永祿年間徳川家康岡崎より移り居城し濱松城と稱す、徳川時代には城下の道路至つて狭かりしが最近縣及市に於て之が改築を爲し面目を一新す、本市は東海道届指の工業都市として著名なり、なかんづく日本樂器、帝國製帽、日本形染の三大會社を始め綿織物工場、製鐵工場等幾多の工場を有す、又附近一帯は綿織物の特產地なり、また三方原の曠野を利用して飛行第七聯隊、高射砲第一聯隊、陸軍飛行學校等あり軍事都市として有名なり。

**三方原古戰場** 濱松市の北方約二里の間を三方原と稱し、元龜三年十二月武田信玄、徳川家康の兩將大激戦を爲したる古戰場として著名なり。

**舞坂町** 濱名湖の東岸に在り五十三次の宿驛にして、對岸新居まで海上一里二十七間の間渡船を以て越したるも、最近國道改良せられ湖上には橋を架して今は自動車を通す。辨天島は舞坂町に屬する湖上の一島にして風光明媚海水浴場として其名を知らる、また同地は漁業盛にして鰻の養殖行はれ京濱、京坂地方に移出す。

**濱名湖** 東西一里二十九町、南北二里三十二町、面積五方里、南は遠州灘に通ず、昔は遠淡海と呼び淡水湖なりしが、應永文明、明應、永正等數回の海嘯のために湖口濱決して今や潮海となり湖口を今切と稱せり、沿岸の浦瀬山光水色と相掩映じ明媚風景類例尠く眞に東海の勝地なり。

**濱名湖橋梁** 新居町辨天島より新居驛前に至る區間にて中濱名橋、西濱名橋及其の取合道路延長三、〇二八米一五なり。

大正十五年七月着工、昭和七年八月竣工す。工費八十八萬餘圓なり、橋別にすれば次の如し。

#### 中 濱 名 橋

延長一九〇米三五、有効幅員七米二七、型式鐵筋混泥土拱橋

#### 西 濱 名 湖 橋

延長四八四米八、有効幅員七、六四、型式鐵筋混泥土拱橋

#### 新居町

濱名湖の西岸に在り五十三次の宿驛、古へは荒堀又は荒井、安禮崎ともいひ萬葉集等に見え古來著名の地なり、慶長五年此の地に關所を設け箱根の關と相俟つて東海道要衝の關所たり、關は三州吉田城主松平伊豆守をして守らしむ、此の關は女及鐵砲の類は證文なきものは越ゆるを許さず、又上使及繼飛脚の外は夜中一切の通行を禁ぜらる、今の町役場は當時關所の建物にして史蹟名勝天然記念物に指定さる。

**橋本の古驛** 新居町の西にあり五十三次宿驛制定以前の古驛にして、濱名の橋本といひむかしの濱名橋の橋本なり橋跡は今縁に石垣を存す、此の地に女谷と云ふ所あり、建久元年右大將源賴朝上洛の時旅館の舊蹟なり、當時橋本の遊女群參したるところより其の名を付せられたり。

**潮見坂** 東海道舊道にして、坂路屈曲多く坂を登れば一望千里渺茫たる蒼海を開き、白浪銀砂を洗ひ老松枝をかさし翠色を滴し風光明媚、かつて明治大帝東京還都の際此の坂頭に鳳輦を駐めさせ給ひ、京都御發輶後始めて大洋を看そなはせられし由、木戸公の日記に詳かなり、今御駐輶の聖跡を永へに保存するため公園と爲し記念碑を建つ。

**白須賀町** 縣下西端愛知縣界に位し五十三次の宿驛なり。昔の宿は汐見坂の下今本宿なりしも元祿年中津浪のため今坂上に移りたり。

## 靜岡縣茶業大要

一四

「お茶は静岡、山は富士」の標語通り茶は本縣主要產物中の最も主要なるものにして實に日本一なり、即ち本縣の生産額は全國產額の七割を占め、海外輸出は其の獨占するところにして、逐年増加す最近の產額を記せば左の如し

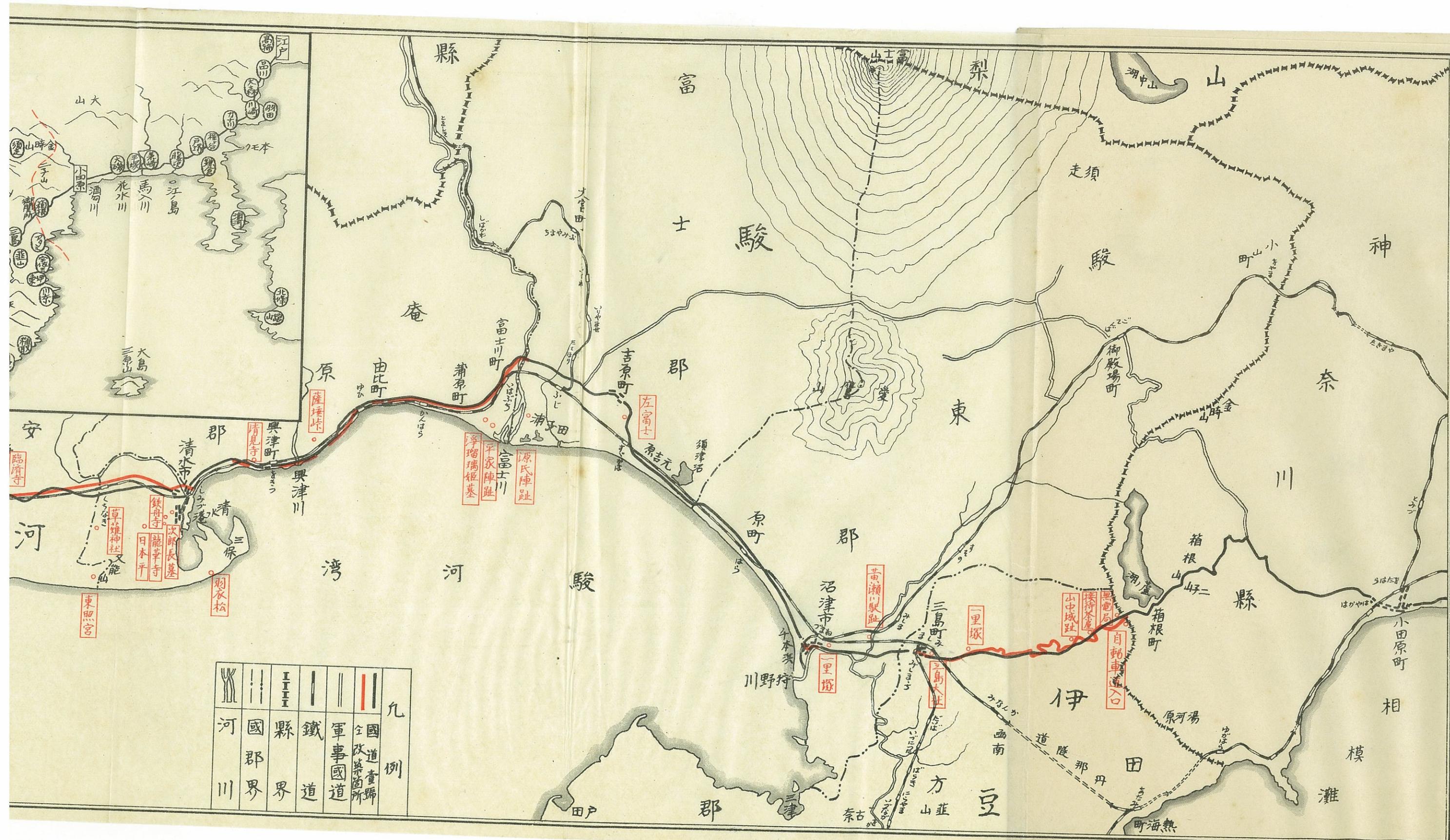
昭和十年

全國產額 一二、一六八、一四七貫 二三、二六三、二七三圓

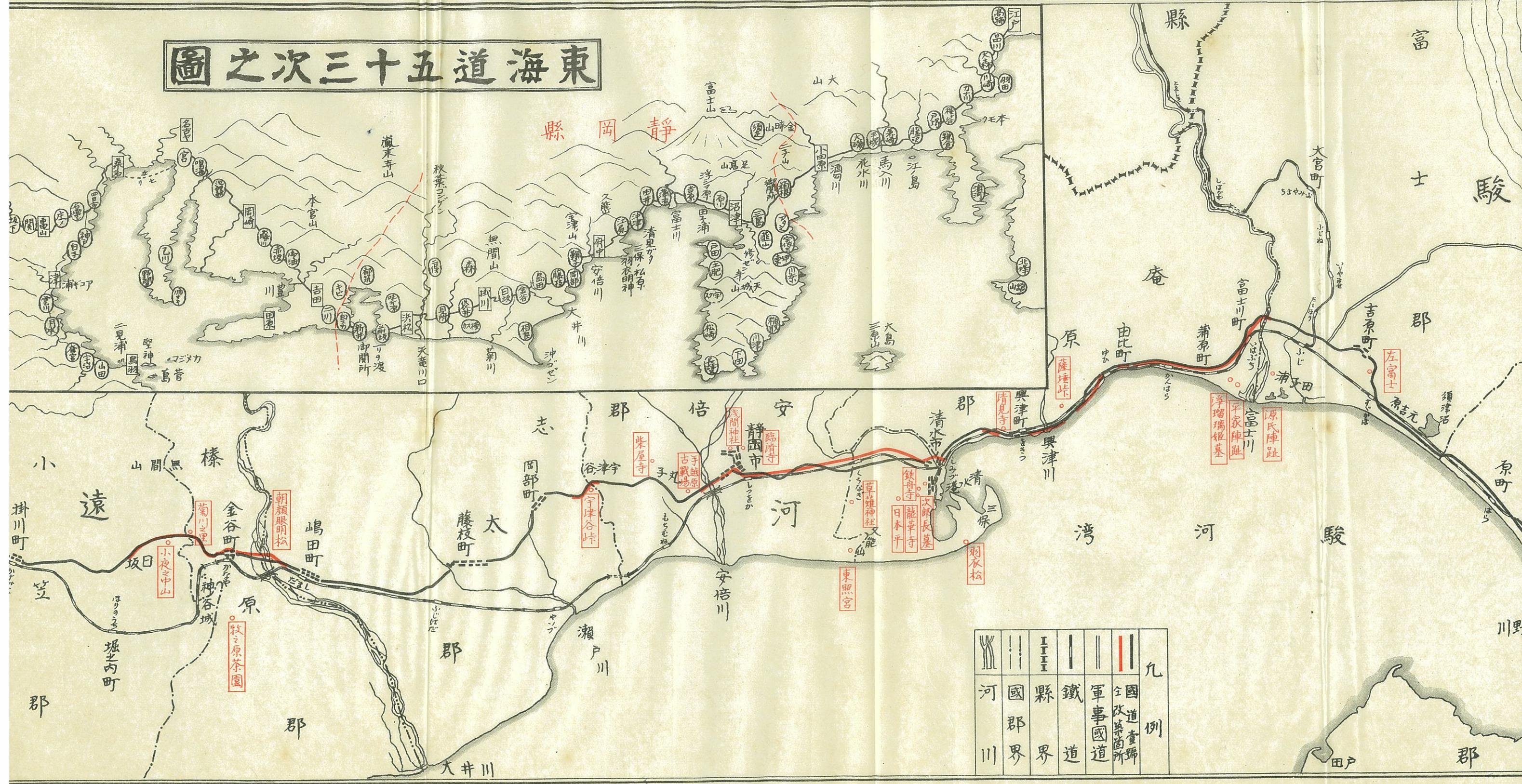
靜岡縣產額 九、四六一、一一六貫 一五、八四七、六一二圓

海外輸出 二三、九九二、八一二封度 一〇、三二一、一一圓

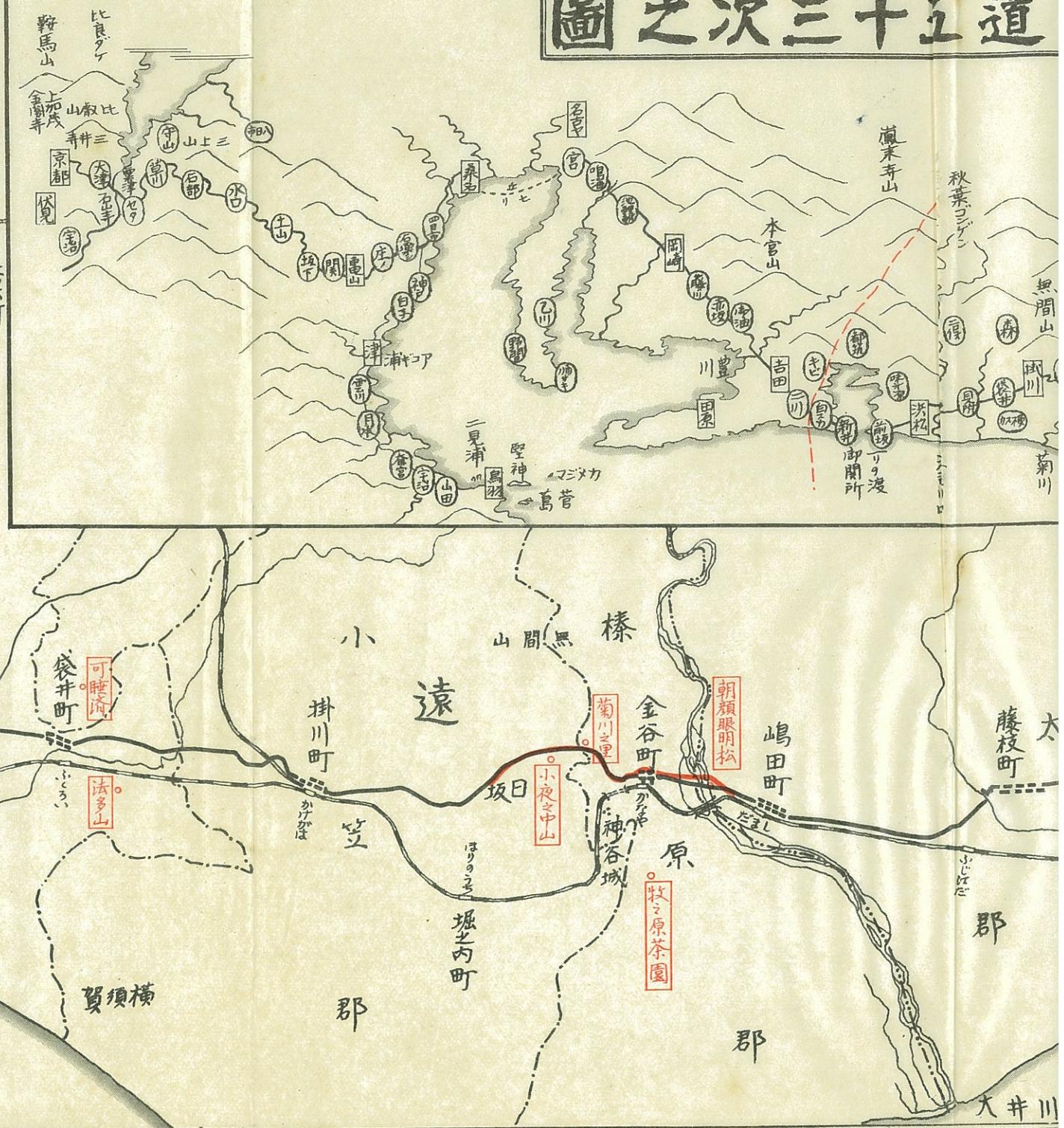
而して輸出先の重なる國は米、加兩國にして其の他新販路として、ソヴェート聯邦、北阿方面、印度、アフガニスタン、潔洲イラン及滿洲方面への躍進いちじるしきものあり。



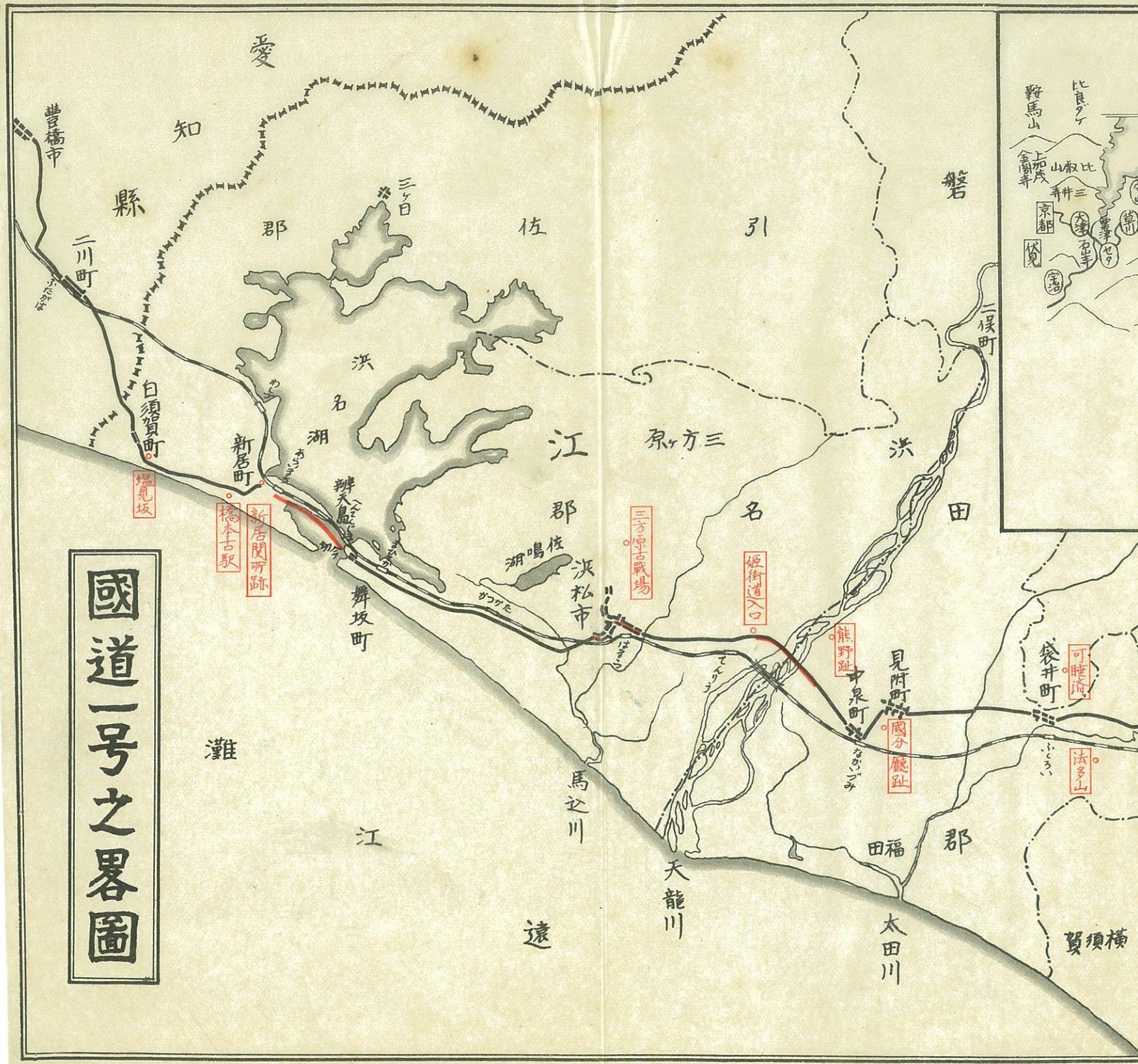
# 東海道三十五次之次圖



# 道主三十次之圖



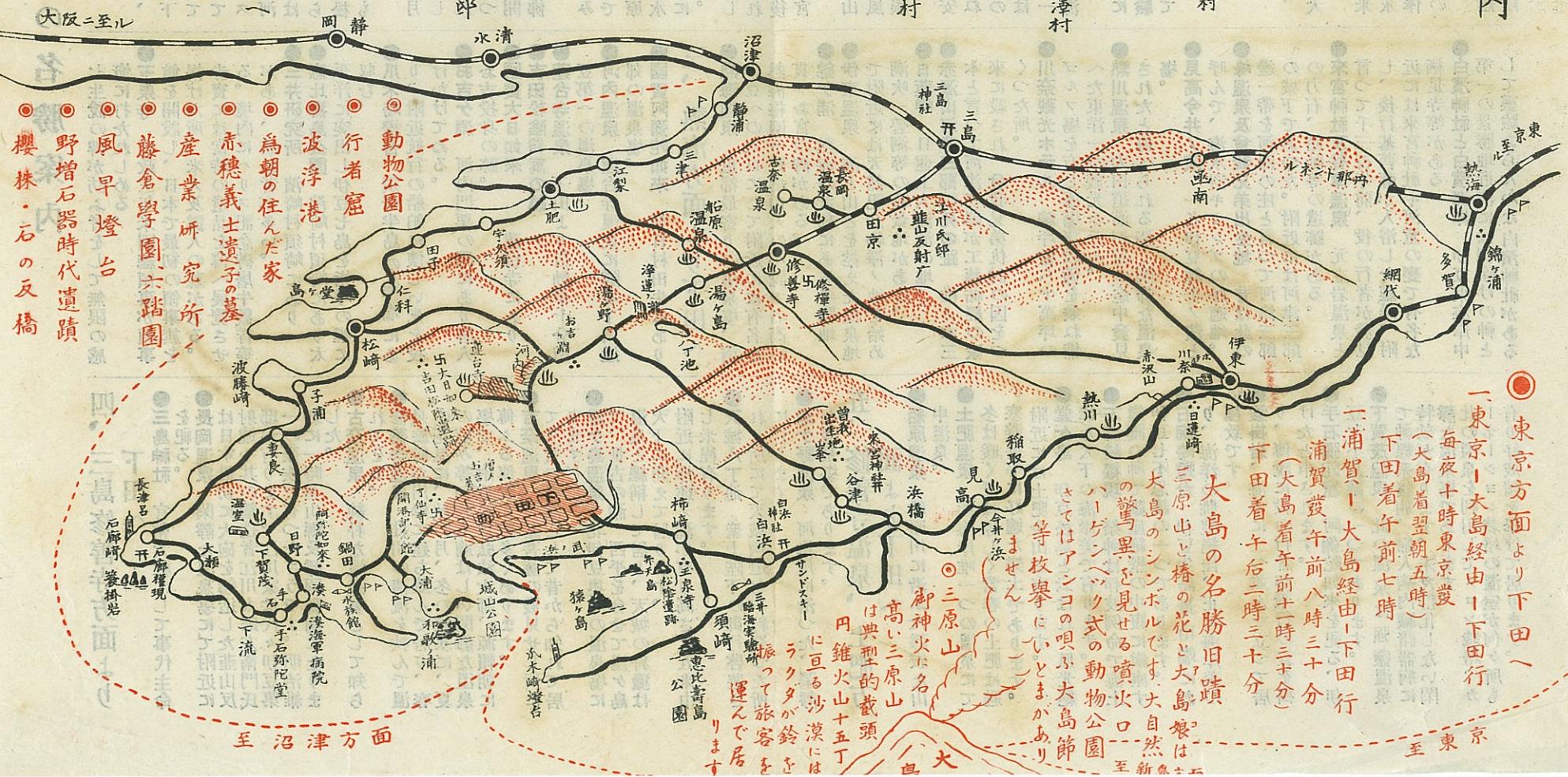
## 國道一號之畧圖



# 下田沿線名勝案内

## 一、下田附近

1. 唐人お吉の墓  
2. 循環道路及和歌の浦  
木、大浦海岸
- 八、下田公園  
1. 下田水族館  
2. 柿崎辨天島と松陰の遺跡  
3. 柿崎玉泉寺  
4. 三井臨海實驗所  
5. 恵比壽島公園  
6. 水爪水崎燈台  
7. お吉ヶ淵  
ト國寶大日如來  
8. 吉田松陰奇寓の跡  
リ蓮台寺温泉  
又、河内温泉  
9. 國寶阿彌陀如來  
10. 伊東温泉  
11. 錦ヶ浦  
12. 伊東温泉  
13. 蓮崎  
ト熱川温泉  
木、赤澤山河津三郎憲死之趾  
火、峯温泉及曾我兄弟出生地  
又、河津來宮神社及谷津温泉  
ル、白瀬神社と白瀬海岸
- 四、三島修善寺方面より下田
1. 三島神社  
2. 三島修善寺  
木、吉奈温泉  
ト、湯ヶ島温泉  
ト、天城八丁池と淨蓮ノ瀧  
口、船原温泉  
木、肥温泉  
二、仁科堂ヶ島  
木、石廊崎權現  
ト、手石弥陀窟  
チ、下賀茂温泉及溫室



● 東京方面より下田  
一、東京—大島経由—下田行  
浦賀行、午前八時三十分  
(大島着午前十一時三十分)

下田着午後三時三十分

一、蒲賀—大島経由—下田行  
浦賀行、午前八時三十分  
(大島着午前十一時三十分)

下田着午後三時三十分

大島の名勝旧蹟

大島着午前十一時三十分

下田着午後三時三十分

● 三原山

御神火上名

高い三原山

は典型的的截頭

円錐火山十五丁

に亘る沙漠には

ラクダが鈴を

振つて旅客を

運んで居

ります

## 四、三島修善寺方面より下田

1. 三島神社  
2. 三島修善寺  
木、吉奈温泉  
ト、湯ヶ島温泉  
ト、天城八丁池と淨蓮ノ瀧  
口、船原温泉  
木、肥温泉  
二、仁科堂ヶ島  
木、石廊崎權現  
ト、手石弥陀窟  
チ、下賀茂温泉及溫室

## 五、修善寺、土肥方面より下田

1. 修善寺温泉  
2. 修善寺

- 木、吉奈温泉  
ト、天城八丁池と淨蓮ノ瀧  
口、船原温泉  
木、肥温泉  
二、仁科堂ヶ島  
木、石廊崎權現  
ト、手石弥陀窟  
チ、下賀茂温泉及溫室

